

風土記の丘の花だより¹⁷²

今、そしてこれから見られる植物(2023年2月11日)

寒い北風が吹いたり、暖くなったり、雨が降ったりと、はっきりしない天気が続きます。また、スギ花粉もとびだして、みな様、体調管理はだいじょうぶでしょうか。



今回はそんなスギの花からです。といっても、花粉をまき散らす憎っくき雄花ではなく、人知れず咲く雌花を紹介します。写真はまだ開ききっていないみたいですが、丸っこく見えるのが雌花です。ここに花粉が飛んできて受粉すると、実ができ、ビー玉ほどに成長します。その緑色の実が枝の先でゆらゆら揺れてよく目立ち、冬には茶色になって割れて、中から種子を落とします。花粉症の方は見たくもないでしょうが、枝が落ちていたら、意を決して観察されてはいかがでしょうか。(何もそこまでして見なくてもいいか・・・)



2つ目はまた地味なものを紹介します。アキニレの実です。もうほとんど鳥に食われて残り少なくなっていますが、種子の周りに薄い膜のようなものがついているので近くで見てください。アキニレの樹皮は細かくはがれ、ガサガサした感じですが、探してみてください。歌謡曲の歌詞に「にれの木陰に・・・」というようなフレーズが出てきますが、「ニレ」という木はありません。歌の雰囲気から察するに、それはケヤキか何かだと思います。(全くの私見です。)



大きな木や古い石垣などに張り付いて生えるこの植物は、マメツタというシダ植物です。一番見やすいのは万葉植物園の西の園路沿いです。写真の円い葉は光合成をするための栄養葉(えいようよう)です。胞子を出すための胞子葉(ほうしよう)は細長くて立ち上がります。シダですから花は咲きませんが、葉が円くて小さいところがかわいくて、観賞価値はありますね。まあ、感じ方は、人それぞれですけどね。



梅園のウメがきれいに咲いています。紅白入り乱れてなかなかきれいです。園路から見下ろしてもよし、下りて行って近くで愛でるのもよしです。顔を近づけて見ると、白梅には2種類あって、花の萼が赤茶色のものと、黄緑色のものがあることに気づきます。紅梅の品種は、不勉強の私にはわかりませんが、萼が黄緑色の白梅は「リョクガク」という名前です。足元には春の草も少しずつ咲き始めていますよ。

松下